

令和6年度 静岡県立袋井特別支援学校 第1回学校運営協議会 議事録

1 日時 令和6年5月17日（金） 午前9時30分から11時30分

2 会場 静岡県立袋井特別支援学校 会議室

3 参加者 計 18人

(1) 学校運営協議会委員 7人

委員A、委員B、委員C、委員D、委員E、委員F、委員G

(2) 学校関係者 11人

校長、副校長、教頭、事務長、小学部主事、中学部主事、高等部主事、肢体主任
教務課長、支援連携課長、コミュニティ・スクールディレクター

4 内容

(1) 学校運営協議会委員任命状 伝達 （校長）

(2) 校長挨拶

- ・ 新年度の児童生徒の様子と今後の教育活動計画について
- ・ 学校運営協議会に対する期待

(3) 自己紹介（出席者）

(4) 会長・副会長の選出、承認

(5) 会長挨拶

- ・ 委員として児童生徒と接した中で感じたこと
- ・ 地域の人材活用についての提案

(6) 協議（司会：会長）

ア 令和6年度学校経営計画、学部経営計画について

① 令和6年度学校経営計画説明（校長）

② 各学部、肢体不自由教育、訪問経営計画説明（部主事、肢体主任）

③ 質疑応答、意見交換

- ・ 委員G：高等部の ICT 機器活用について。余暇活動の過ごし方が変わってきている中、高等部で学ぶ機会があると良い。地域で活用できる人材がいれば、地域とのつながりにもなる。
- ・ 委員A：地元でスマホ教室を開いたときの講師はいる。依頼するならテーマを絞ると良い。
- ・ 学校：学校でも、ICT 機器活用を取り入れている。余暇活動や将来の生活にも生かせるようにしていきたい。
- ・ 委員A：スマホの教室では、繰り返し開催すると生徒同士が教え合うようになる。

- ・ 委員E：大学の学生にも長けている生徒がいるのでぜひ活用してほしい。パソコンを使ってデザインする生徒もいる。
- ・ 委員D：医療の連携の点では、看護専門学校は、職員がほぼ看護師なので、協力できることもある。
- ・ 委員B：学校のグランドデザインが分かりやすい。先生たちが声を出す環境を作ることが大変だと思うが、そのために何か行っているか？
- ・ 学校：普段の授業作りから、意見を言いやすく出てきた意見を否定しない、認める集団を作っていくこと。誰かが声を出したらキャッチしてあげること。そのために管理職の役割として、教職員間の風通しが良くなるように、管理職から声を掛けるようにしている。
- ・ 委員F：『キャリア発達』という言葉の意味が分からない。
- ・ 学校：キャリア発達は、子どもたちのこれまでの生活から社会に出ていく生活を考え、自分ができることをしながら自分らしくできるようにしていくこと。
- ・ 委員F：新型コロナウイルスが流行り、保護者が先生と話す機会が減った。参観会も、ばらばらに行行ってすぐ帰ってくる。

国語・数学を先生同士で見合うことはいいと思う。性の指導の授業は、保護者も見てみたい。学校で知っている情報は、保護者にも共有してもらいたい。

- ・ 学校：以前は送迎時に話をしていたが、今は放ディの利用も増え、迎えのときも混雑を避けるためにすぐに引き渡している。スクールバスのバス停で保護者同士の会話もあった。欠席連絡もCOCOOになり、直接話す機会が減ったことは事実。
- ・ 委員F：COCOOになっても、欠席すると放課後に学校から電話を入れてくれる。連絡ノートも丁寧に書いてくれている。
- ・ 委員C：最近、障害者の『合理的配慮』と言われているが、地域の方は、合理的配慮は何をすればよいのかわからない。子どもたちが来たときにどう接したらよいのか。学校内では、合理的配慮をされているのに、外に出たら配慮されなくなってしまう。
- ・ 学校：地域の施設に伺う前には、教員からこうしてほしいという依頼をする。それらが、子どもたちにとっての合理的配慮になる。施設側は、できる範囲でやっていただけると良い。
- ・ 委員C：逆に何をしてほしいか、（こちらが）聞くことですね。
- ・ 委員E：民間では、合理的配慮が義務化になった。対話をして、合理的配慮の着地点を一緒に考えることが大切ではないか。
- ・ 委員F：（合理的配慮は）じろじろ見ないでほしいなど、普通で良い。若い人の方が普通に接し、逆に年配の人の方が見ることがある。普通にしてくれることが、合理的配慮になる。
- ・ 委員G：過剰な親切はいらない。互いが声を掛け、お互いが気持ち良いものになることが大切。配慮は難しいが、相手の立場を想像してくることが大切になる。

- ・ 委員 E：完璧は難しいが、少しずつアップデートしていければ良い。

④ 承認

イ 令和 6 年度の活動について

① 「地域や社会とつながり合う授業や教育活動の実践」について（支援連携課長）

② 進捗状況説明（コミュニティスクールディレクター）

③ 活動への意見交換

- ・ 委員 G：袋井高校美術部の作品作りについて詳しく知りたい。
- ・ 学校：今までは作品展示での交流を行っていた。今年度は、一緒に美術作品を造る計画をしている。
- ・ 委員 G：袋井商業高校で、本校の生徒が作った野菜を売ることはできないか？
- ・ 学校：以前はやっていた。今年度の計画について連絡を取り合っている。
- ・ 委員 G：できると、一般の人との交流になって良い。
- ・ 委員 B：販売会は磐田市に住んでいる OB も楽しみにしているが、情報が得られない。OB に事前に伝えられると良い。
- ・ 学校：どうしたら情報が届きますか？
- ・ 委員 B：育成会のメンバーに伝えることができる。
- ・ 委員 F：ホームページに載せてはどうか。
- ・ 学校：ホームページには載せているが、見なければ探せない。
- ・ 委員 G：袋井市は、市の連絡メールに学校の情報も入る。磐田市にも依頼して、学校のことも伝わるようになるとよい。
- ・ 委員 F：磐田市は、磐田の情報しか入らない。袋井特支のことは入ってこない。
- ・ 委員 G：学校から磐田市に依頼すればよいか。
- ・ 学校：磐田市に学校から投げかけていけば可能かもしれない。森町、掛川市についても同様。無印良品の販売会は、袋井市企画政策課が声を掛けてくれた。
- ・ 委員 C：本年度計画している押し花の活動は、やってもらえて嬉しいが、やった後のこともメールで発信したい。例年の清掃活動も、子どもたちが楽しくできるように先生方とコミュニケーションをとっていきたい。
車いすで学校から出るときにかなり道が悪いがどうやって出ているのか？
- ・ 委員 G：この辺りは、地盤が悪く、何回も直してもらっている。
- ・ 委員 C：新幹線の南側の開発計画があるので、総合計画に支援学校の要望も入れてもらえると良い。
- ・ 委員 A：目的地まで、特支の生徒もストレスなく行ける。
- ・ 委員 C：特支の子どもたちが安全に行ける歩道を作る。

- ・ 委員 A：今の歩道は親切に作られていない。歩道には、車いす同士がすれ違える幅の確保や、路肩に車を止めるスペースの車道の確保を計画しているところもある。セントラルパークや遊水池は水辺を意識した整備を計画している。始まったばかりの計画なので、これからそういう視点を入れた要望を入れてもらうことはできる。セントラルパークをスタートに方向付けしていくことはできるので話をしていく。
- ・ 委員 D：ベビーカーも通ることが大変。
- ・ 委員 A：今は、若い人を呼び込みたい。住んでみたいと思うためには、子育て世代が安心できることをアピールすることが大切なので、計画に入れ込みやすい。若い人、障害者、高齢者に視点を当て、方向性を付けていく。
- ・ 委員 F：若い学生が働くときには、障害者が一緒にいる時代になる。これをきっかけに学生が協力することができれば良い。できることのきっかけを意識付けしていきたい。
- ・ 委員 A：昨年度の畑を見たが、もう荒れ地になってしまっていた。全部を地域ではできないが一緒にやっていく提案をしてほしい。
- ・ 学校：そもそも土地が本校の土地ではなく、市の土地。道路と面しているのでガードレールなど子どもを守るものがあれば使える。今年は、校内でプランターに野菜やバケツに稲の栽培を計画している。
- ・ 委員 A：畑の土地は自治会に入っていない。県の道路部署があるから聞いてみる。活発な御意見ありがとうございました。

(7) 連絡事項（副校長）

- ・ 今後の学校運営協議会の日程について

(8) 閉式のことば（教頭）

(9) 校内参観